

情勢報告（平成27年7月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

次作の改善に向け、促成トマト生産者の個別カウンセリングを開始



個別カウンセリング実施中

7月1日から24日にかけて、普及所では管内の促成トマト生産者（15名）を対象に、個別カウンセリングを実施しています。

カウンセリングでは、栽培上の課題改善や経営指導を中心に、次作での生産量や販売額の目標を確認し、助言しています。また、土壌分析に基づいた診断結果や栽培中の肥培管理の問題点などについても指導しています。

普及所では生産者の目標を達成するため、個別指導を中心に技術指導、経営指導を行っていきます。

J A コスモスニラ部会が越知町で露地ニラ生産者を対象に月例会を開催



普及所からの情報を説明

7月8日、越知町で露地ニラ生産者を対象とした月例会が開催され、14名の生産者が参加しました。

普及所からは、「共同出荷調製施設（仮称：そぐりセンター）」の利用試算について情報提供を行いました。生産者からは、「調製歩留まりはどれくらいになりそうか？」「出荷調製を農家がしなくて済めば栽培面積の拡大が望める」といった声があがり、共同出荷調製施設への期待がうかがわれました。

普及所では、ニラの生産推進のため、栽培技術や品質の向上対策、省力化に向けた取り組みを継続していきます。

『こうち型集落営農組織』“RAAV（ラーヴ）ひらの”総会が開催される



年次総会を開催

7月10日、佐川町の集落営農組織、RAAVひらので年次総会が開催され、10名の組合員が参加しました。設立7年目となる平成27年現在、組合員15名が活動しています。

組織として取り組んでいる品目は、主食用水稻に加え、WCSや飼料用米などの非食用米、露地ショウガや露地ピーマン、ブロッコリー等の園芸作物など、多岐にわたります。

普及所では、高吾地域における『こうち型集落営農組織』のモデル集落として、収益向上に向けた取り組みを支援していきます。

J A コスモス文旦部会が仁淀川町で現地検討会を開催



今年の文旦の生育は
順調です

7月22日、J A コスモス文旦部会の現地検討会が仁淀川町で開催され、部会員名6名のほか、J A、仁淀川町、普及所から合計10名が参加しました。当日は4ほ場を巡回し、作柄や栽培上の留意点などを検討し、生産者からは、今年は受粉が順調で着果量が多く、果形が良好で大果になることが期待できると報告されました。

普及所からは、果実糖度と降水量との関係のほか、微量元素欠乏に似た症状が一部ほ場で発生しており、土壌pHが低かったことから、土壌分析を行い全戸の実態把握を行うことを報告しました。

普及所では、土壌分析結果や天候と果実品質との関係などを指導材料とし、高品質な果実生産を支援していきます。